



生徒の活躍を支える コミュニティ・スクールの取組

大田区立雪谷中学校
校長
学校運営協議会委員

柳 歓子
内田 進

東京都大田区

学校

雪谷中学校

学校運営協議会

指定・設置年 令和5年

委員構成

- 地域代表
- 保護者
- 地域学校協働活動推進員等
住民
学生
NPO代表
商工会代表
- 関係機関職員
有識者
その他
(自由記述)

会議回数 年 6 回

地域学校協働活動

地域学校協働本部

○

地域学校協働活動推進員等

20名

(うち学校運営協議会委員3名)

背景・取組概要

生徒が「自分らしさ」「自分の良さ」を伸ばすことを学校教育の第一目標とし、生徒会企画など、生徒が自分で考え、工夫して、何かを創り上げる活動を大切にしてきた。CS活動においても、①生徒のやる気や努力を支える、②学校と地域や家庭とのかけ橋となるという目標に加え、③生徒のアイデアを形にするという目標を大切にしている。

特徴・ポイント

①生徒のやる気や努力を支える

・学校行事や、学校公開の際の受付 ・英検等の集金 ・運動会の熱中症対策 ・ガーデンパーティーの手伝い ・自習教室などの活動を通して、生徒の学習や行事での活躍を支えている。

②学校と地域や家庭とのかけ橋となる

・地域行事への参加 ・小学校との連携 ・学校行事のyoutube限定配信などの活動を通して、生徒の活躍を広く、保護者・地域・関係小学校等に発信している。

③生徒のアイデアを形にする

・CS行事「雪中祭り」などの活動を通して、生徒が「生徒自身の企画運営で、試行錯誤しながらゼロから何かを創り上げる」という体験を作り上げる体験を実現している。
この行事では、教師は「場所と用具を貸す」「当日行事に参加し、生徒と一緒にプログラムを楽しむ」のみとし、学校運営協議会委員・地域学校協働本部の支援と見守りのもと、企画・準備・当日の運営・片付け・行事の振り返りまで、すべて生徒の手で運営が進められている。

成果・効果

- ・コミュニティ・スクールとしての活動に支えられて、学校の教育活動が円滑に実施され、また、生徒の活躍が広く発信されることに感謝している。特にCS行事では、実行委員として参加する生徒が年々増加し、生徒たちが期待と達成感を持っていることが伝わってくる。
- ・校長としては、「地域社会の方々のアイデアや知見を、学校経営に生かすことができる」「地域社会と協働することで、様々な活動を実現するためのマンパワーを得ることができる」という点にコミュニティ・スクールの成果を実感している。実際に学校を支えて活動してくださっている地域の方々からも、「学校運営協議会」「地域学校協働本部」などに所属することで、立場が明確になり、支援しやすい、という声をいただいている。

本日の発表内容

- 1 雪谷中学校のCS活動
～エージェンシーを発揮できる学校づくりを目指して～
- 2 生徒のアイデアを形にするCS行事「雪中まつり」
- 3 成果と課題（学校より）
- 4 雪中CS・保護者の目線（地域学校協働本部より）

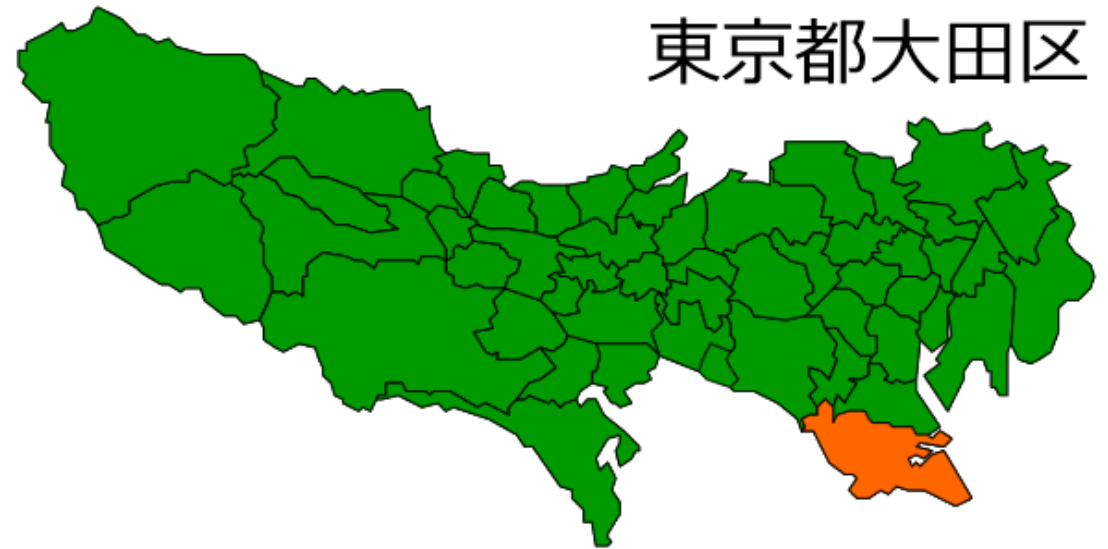


雪谷中学校のCS活動

大田区立雪谷中学校

全校生徒 381名（11学級）
教員数 22名

羽田空港を擁する大田区
呑川沿いの閑静な住宅地
に位置している



雪谷中学校のCS活動

雪谷中学校 学校教育目標

- 自己や他者の良いところに目を向けることができ、自己肯定感が高い生徒
- コミュニケーション能力、表現力を持ち、他者と協働できる生徒
- 学力・体力の向上を目指し、ねばり強く努力する生徒

令和5・6年度大田区教育委員会教育研究協力校

研究テーマ 「学習者主体の授業」に向けた
学習者用タブレット活用の工夫

ひとりひとりがエージェンシーを
発揮できる
学校づくりを目指す



雪谷中学校のCS活動

活動目標①生徒のやる気や努力を支える。

・学校行事の支援 ・自習教室 など

活動目標②学校と地域や家庭との懸け橋になる。

・地域行事への参加 ・小学校との連携 など

活動目標③生徒のアイデアを形にする。

・CS行事「雪中祭り」



大田区こども
ガーデンパーティー



雪谷八幡神社
神輿ボランティア



連携小学校との
合唱交流

雪谷中学校のCS活動

雪谷中学校 学校運営協議会 の構成メンバー

南雪谷自治会長・南雪谷自治会役員（学校防災拠点運営委員）
東雪谷自治会長（同窓会長）・東雪谷自治会役員（地区青少年対策委員）
地区担当主任児童委員・連携小学校長
PTA会長・PTA副会長
地域学校協働本部長（元PTA副会長）
地域学校協働本部コーディネーター（元PTA副会長）
地域学校協働本部（元PTA副会長）

校長・副校長・主幹教諭・主幹養護教諭

○学校のことをよく知っているメンバーが多い

○地域学校協働本部の中心は保護者および保護者OB

生徒のアイデアを形にするCS行事「雪中まつり」

CS行事「雪中祭り」



生徒自身の
企画運営で、
試行錯誤しながら
ゼロから何かを
創り上げる活動が
できないだろうか

自ら考え、判断して
責任ある行動をとり、
多様な価値観の中で
創造的な対話を
通して、アイデアを
形にしてい

生徒のアイデアを形にするCS行事「雪中まつり」



「雪中祭り」は
教育課程外の
活動とし、
希望する生徒が
自主的に参加
準備は放課後
本番は土曜日

企画立ち上げは
令和5年度に
生徒会役員から
スタートし、
現在は実行委員
制になっている。

生徒のアイデアを形にするCS行事「雪中まつり」



準備は「放課後」10日
準備のみ参加、当日のみ参加も可

準備は
学校地域協働本部の
見守りのもと、
すべて生徒が進める。

教員の仕事は
・最初の募集
・場所と用具の提供
のみ
当日「一参加者」
として「雪中祭り」を
楽しむ

生徒のアイデアを形にするCS行事「雪中まつり」



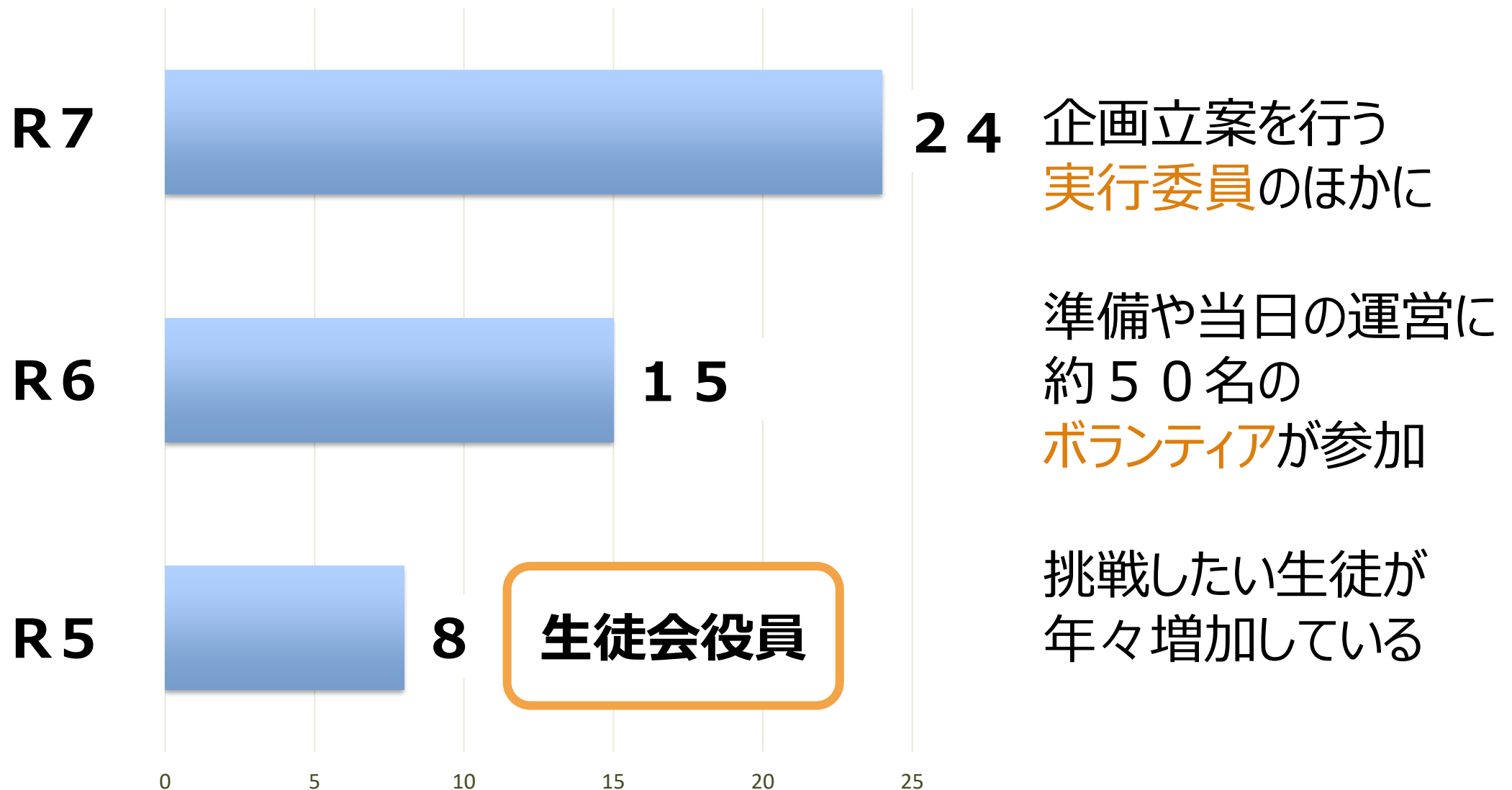
小学生の部（午前）
地域の連携小学校の児童・
保護者を招待
昨年度プログラム一番人気は
「学校かくれんぼ」



雪中生の部（午後）
雪中生だけのお祭り！
「未成年の主張」や
「学校バンクシー」など
中学生ならではのプログラムも

成果と課題（学校より）

・「雪中祭り」実行委員（1, 2年のみ）の人数



成果

- 「自分たちでいちから何かを作り上げる」という挑戦に参加する生徒が増え、**生徒の自主性の伸長**が見られる。**2年続けて参加し、課題解決に取り組む**生徒も。
- コミュニティ・スクールとなったことで、支援してくださる方々に**公的な立場が生まれ、支援しやすくなった。**

課題

- 参加した生徒たちが得た経験を全校生徒に還元する。
- 教員の勤務の扱い。



何事もこれを大切にしています

- 気づく
 - 興味を持つ
 - 考える
 - 答えを出す
 - 共有・許容する
 - 行動する

5 K + 1 K

スタートは、

- 小学生と中学生に対するこちらの**立ち位置の違い**
- **生徒の自立**を支援したい

というPTAとしての想い

そして、CSを切っ掛けとして、

「**生徒のアイデア**を形にする。」

このことに完全に同意！

エピソード①

「おどろく量と質のアイデア！」

自分たちの理念

●生徒の“主体性を育む”

そのために

- ①ゼロイチの場創り
- ②引っ張り過ぎないようにする

エピソード②

「去年と違うことをやりたいんです！」

大事なのは、

成果や結果よりもプロセス

と思っています。

主体性を育むために、

好奇心と冒険心を大事にしています。

生徒の声・様子

「自分たちでゼロイチをしている感がある」

「3年生でも積極的に参加！」

雪中CS・保護者の目線・8/10



目指すところ

「まかせろっ♪」と言えるひとと場づくり

CSで成長するのは生徒のみならず。

**点が線になって面になる、そして立体、
空間になって世界観になる。
を体感しています。**

ご清聴ありがとうございました



コミュニティ・スクールという仕組みを生かし
生徒の活躍を支えていきます